

整理番号	12-1	事務事業名	市誌編さん事業		作成部署	総務部市誌編さん担当	電話	内線787
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	西野隆夫	課長職名	住田幸雄	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H13	根拠法令等	なし					
〃 終了予定年度	H18							
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	昭和47年に「広島町のあゆみ」が発刊されて以来33年が経過し、その後のまちの変遷が著しく、大きく変貌したまちの推移を史実として後世に残しておくため。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐくむまち	(第4章)
	節	芸術と文化	(第4節)
	施策	歴史・文化の継承	(第4施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	まちの歴史	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	新たに市誌を編さん・発刊して、我がまちの歩みを史実として後世に残す。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	<ul style="list-style-type: none"> 市民10名よる「市誌編さん委員会」を設け、市民参加により基本的方針や構成等を協議。 平成14年度～18年度までの市誌編さん業務委託契約を締結し、資料の調査分析、原稿執筆、編集、印刷製本までの一連の業務を民間委託。 写真や文献等の資料収集業務。
		17年度	<ul style="list-style-type: none"> 写真や文献等の資料収集業務。 市誌編さん委員会の開催(市誌原稿の閲覧審議、工程確認、資料収集など)。 委託業者と連絡調整、情報交換。

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	8,509	9,395	10,891	24,465
	合計	8,509	9,395	10,891	24,465
人件費(概算)	人数(年間)	1.00	1.00	1.00	1.00
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	9,000	9,000	9,000	9,000
総事業費 +		17,509	18,395	19,891	33,465

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	市誌編さん委員会開催回数	3回	1回	8回	8回
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	市誌作成部数(1,300ページ)				1,000部
	写真集作成部数(150ページ)				1,000部
	CD作成				各1枚
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)					

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	まちの推移を記録に残すことは大切なことであり、他市町村でもある程度の間隔を置いて市町村史を発刊している。また、発刊にあたっては人数が必要だが、文章表現やページ数の均衡、構成などの統一性や総合的な調整、事業の進行管理など専門的に実施している民間業者のほうが優れ、さらに職員配置も少数数ですみ、経費的にも安価と思われ、多くの他市町村と同様に専門的に実施する業者へ委託とした。
---------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	まちの史実を記録として後世に引き継ぐ重要に事業であり、市が行うべき事業と考える。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	直近の町史が発刊されて以来30年以上経過し、その間に町から市へと大きく変貌しており、まちの推移を記録として残す市誌発刊は重要で、取り組みは遅いぐらいで妥当である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	人件費、調査費、印刷製本費が主な経費であるが、民間委託方式による実施のほうが上述の評価のとおり効率的である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		平成18年度完成・納品であるので、その時点までに、公用配付以外について有償配付の方向で検討する。

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	民間の会社に委託することで、専門的な資料収集や原稿執筆業務がつつがなく進んでいる。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	民間委託により、直営方式に比べて事業の統一性や進行管理、人件費のコスト削減が図られている。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	委託による執筆活動の進捗状況については、概ね予定どおり進んでいる。平成18年8月の完成に向けて、現状のまま継続する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり